

女川原子力発電所環境放射能調査結果（令和 7 年度第 1 四半期報）の 訂正について

1 概要

女川原子力発電所環境放射能調査結果（令和 7 年度第 1 四半期報）において、月間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果の Cs-137 の最大値に誤りがあったため、訂正するもの。

なお、本件に伴う他の核種及び過去の公表値への影響がないこと、並びに過去 10 年間の四半期報及び年報において同様の誤りがないことは確認済みである。

2 訂正内容

令和 7 年度第 1 四半期報 17 ページ 表－2－2「月間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果」（以下、「表－2－2」という。）内の令和 7 年度第 1 四半期測定値の Cs-137 の最大値を以下のとおり訂正するもの。

（誤）	（正）
0.43	0.35

3 原因

表－2－2 の集計については、女川原子力発電所周辺地域の環境試料中の放射能濃度の範囲を示すため、周辺地域との比較地点である対照地点のデータは除外する必要がある、集計時の錯誤のリスクが高い箇所であった。

集計にあたっては、周辺地域と対照地点が混在しているデータから手作業で、対照地点（環境放射線監視センター）のデータを除外して作成しており、その際、誤って対照地点のデータを含めてしまい、異なった過去範囲を示してしまったものである。

なお、資料作成時にはダブルチェックを実施しているが、当該担当者においても、対照地点のデータ除外について、見落としてしまったものである。

4 再発防止策

所内における資料作成時の錯誤防止については、令和 7 年 1 1 月に策定した錯誤防止対策（錯誤やヒヤリハットに関する過去事例のデータベース化や確認フローを規定し、関連する所内研修を実施する等、第 174 回女川原子力発電所環境調査測定技術会にて報告済）を運用しているところである。

今回の事例は、現在の対策を策定する以前の過誤を発見したものであるが、これを受け、

下記（１）の現在の対策に定めた対応を行うとともに、加えて、集計時の錯誤のリスクを低減し、確実な確認体制の構築のため、下記（２）の新たな再発防止策を実施する。

（１）現在の再発防止策に沿った対応

① 確認フローの規定

報告書確認時に担当者及び確認者が使用する専用のチェックリストを整備する。

チェックリストには、「集計対象から対照地点が除外されていること」「自動抽出されたデータ件数に異常がないこと」等の注意が必要な確認項目を明記し、効果的なダブルチェック体制を構築する。また、定期的にチェックリストの見直しを実施し、確認体制の実効性を維持する。

② 所内研修の実施（令和８年８月実施済）

所内研修において、過去の過誤事例や現在の再発防止策に加え、取扱うデータの重要性、技術者倫理について再確認を行った。

（２）新たに導入する再発防止策

集計プロセスを自動化し、分析結果の Excel データにおいて、対照地点を除く周辺地域のみを対象として最大値及び最小値を自動抽出する仕組みを整備し、対象外データが誤って集計されるリスクを低減する。

17 ページ 表-2-2 月間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果

誤

表－２－２　月間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果^{*1}

核種	令和７年度第１四半期測定値 ^{*2}		前年度までの測定値 ^{*3,4}		単位
			(上段) 平成２８年度～平成２３年２月 (下段) 平成２８年度～令和６年度	(参考) 福島第一原発事故後５年間の最大値 ^{*6}	
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
Mn- 54	9	N D	749	N D	Bq/m ³
Co- 58		N D		N D	
Fe- 59		N D		N D	
Co- 60		N D		N D	
Cs-134		N D		9329	
Cs-137		N D～ <u>0.43</u>		9248	

^{*1} NDは検出下限値未満であることを示す。
^{*2} 女川町浦宿浜(女川オフサイトセンター)、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値を示し、対照地点（仙台市宮城野区幸町(環境放射線監視センター)）の測定値を除く。
^{*3} 女川町浦宿浜(女川宿舍及び女川オフサイトセンター)、旧原子力センター（女川）、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値の範囲を示し、対照地点（保健環境センター、旧原子力センター（仙台）及び仙台市宮城野区幸町（環境放射線監視センター））の測定値を除く。
^{*4} 測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成２８年度以降における測定値の範囲を示す。
^{*5} 平成２３年３月～平成２７年度における最大値を示す。

正

表－２－２　月間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果^{*1}

核種	令和７年度第１四半期測定値 ^{*2}		前年度までの測定値 ^{*3,4}		単位
			(上段) 平成２８年度～平成２３年２月 (下段) 平成２８年度～令和６年度	(参考) 福島第一原発事故後５年間の最大値 ^{*6}	
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
Mn- 54	9	N D	749	N D	Bq/m ³
Co- 58		N D		N D	
Fe- 59		N D		N D	
Co- 60		N D		N D	
Cs-134		N D		9329	
Cs-137		N D～ <u>0.35</u>		9248	

^{*1} NDは検出下限値未満であることを示す。
^{*2} 女川町浦宿浜(女川オフサイトセンター)、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値を示し、対照地点（仙台市宮城野区幸町(環境放射線監視センター)）の測定値を除く。
^{*3} 女川町浦宿浜(女川宿舍及び女川オフサイトセンター)、旧原子力センター（女川）、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値の範囲を示し、対照地点（保健環境センター、旧原子力センター（仙台）及び仙台市宮城野区幸町（環境放射線監視センター））の測定値を除く。
^{*4} 測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成２８年度以降における測定値の範囲を示す。
^{*5} 平成２３年３月～平成２７年度における最大値を示す。

備考

Cs-137濃度の最大値の修正